

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2510 号

Impact of visceral adipose tissue on compliance of adjuvant chemotherapy and relapse-free survival after gastrectomy for gastric cancer: A propensity score matching analysis

内臓脂肪量が胃癌術後の補助化学療法のコンプライアンスおよび無再発生存期間に及ぼす影響：傾向スコアを用いた検討

松井 亮太（まつい りょうた）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、胃癌患者で術前内臓脂肪量が少ないことが術後の補助化学療法のコンプライアンスを不良にし、無再発生存期間を短くすることを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。内臓脂肪量が多い群と少ない群の2群に分け、統計解析の手法として傾向スコアを用いて背景調整を行った後に2群間で比較を行った。その結果、内臓脂肪量が少ない群では術後補助化学療法の中止割合が有意に高く、無再発生存期間は有意に不良であった。また傾向スコアによる患者の選択バイアスを考慮し、全症例を対象として多変量解析を行い、結果の普遍性を示した。多変量解析の結果、内臓脂肪量が少ないことは術後補助化学療法のコンプライアンス不良に関わる独立したリスク因子であることに加え、無再発生存期間の独立した予後不良因子であることを示した。以上から、胃癌術前の体組成評価として内臓脂肪量測定を行うことが後治療および予後予測になることを示した。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。